Q1.下記アカウントをお持ちの場合アカウント名をご記入ください。

github URL <https://github.com/shinnosuke-K>

Qiita URL

Blog URL <https://shinnosuke-k.hatenablog.com/>

Q2.システム開発の得意分野を次のうちから選択してください。（2つまで）\*

* Webアプリケーション（サーバー)
* Webフロントエンド（JavaScript)
* スマートフォンアプリ（iOS)
* スマートフォンアプリ（Android)
* インフラ
* セキュリティ
* MLOps

Q3.得意なプログラミング言語（2つまで) とそれぞれに対して利用経験のあるFramework,ライブラリを記載してください。 ※ライブラリは主要なもののみで構いません。\*

言語：Go

Framework ライブラリ：gin, goose, aws-sdk-go, gorm, goquery

言語：Python

Framework ライブラリ：Flask, OpenCV, numpy, matplotlib, pyocr

Q4.（得意領域をWebアプリケーション（サーバー）・インフラと回答した方へ） Webアプリケーションサーバーに関連するミドルウェア・ツール郡から利用経験のあるものを記載してください。 例: MySQL, PostgreSQL, Redis, nginx, Docker 等

Docker, k8s, MySQL, PostgreSQL, nginx

Q5.（得意領域をWebアプリケーション（サーバー）・インフラと回答した方へ） Google Cloud Platform/Amazon Web Service/Microsoft Azure/Alibaba Cloud 等のクラウドプラットフォーム上にて、利用経験のあるクラウドサービス・プロダクトを記載してください。

AWS : Rekognition, EC2, lambda, S3, Cognito, amplify, RDB, api gateway,

GCP : cloud vision ,

Azure computer vision,

Heroku

Q7.これまでに開発したプロダクトについて教えて下さい。 プロダクトの内容が確認できるものであればプロダクトURLやGitHub URLも合わせて記載してください。 ※プロダクトは、公開しているサービス・アプリに関わらず、研究・ハッカソン・ライブラリ等でも構いません。\*

模試の点数、偏差値、平均点から偏差値、点数、高校を調べるWebアプリ

■言語・フレームワーク

フロントエンド：Vue.js

バックエンド：Go言語

クラウド：Heroku

■開発詳細

模試などで提供される，自分の点数，偏差値，平均点を入力して，設定した偏差値を取るためには何点取ればよいのかと，設定した点数に対応した偏差値を表示してくれるWebアプリを作成しました．

作成した背景は，僕が塾でアルバイトとして働いている中で，生徒から偏差値のことやあと何点取ったら偏差値が幾つになるかなどの質問も多く、教室長も懇談で偏差値のことで生徒の親から話しがあがるということを聞きました。

それなら，点数や偏差値がわかるようなものがあれば便利だと感じたのが始まりです．

■機能について

２つ機能があります。

１つ目は、模試などで提供される，自分の点数，偏差値，平均点を入力して，設定した偏差値を取るためには何点取ればよいのか，あるいは、設定した点数に対応した偏差値のどちらかを選択して表示

２つ目は、表示された偏差値と都道府県を選択すると、選択した偏差値と同じ高校名を表示

■URL

http://deviation-value.herokuapp.com/

Q8.上記にあげたプロダクトの中で、最もあなたをアピールできるプロダクトについて、開発した際のあなたの役割や技術的に苦労した・こだわった点が分かるように記載して下さい。\*

■こだわった点

今までは偏差値は模試などの結果でわかって、それを元に懇談などは行われていたのが、このアプリを使うことで、この模試であと何点取れば偏差値がこの数字になるという話や、目標としている学校の偏差値を取るためにはこの模試だとこの点数を取る必要があったなどの今までにない会話の切口が生まれるのではないかと考えています。

■苦労した点

高校情報を集めるのに苦労しました。高校の情報は、高校名、学科、偏差値の3つと公式サイトの2つに分けて集めました。まず高校名、学科、偏差値について、都道府県別に高校の情報が載っているWebサイトからスクレイピングで取得しました。このスクレイピングのプログラムも自作しましたが、高校名や偏差値などの情報がどこのhtmlのタグにあるかを調べる箇所をChromeのデベロッパーツールを駆使しながら取得しました。次に公式サイトについて、Google検索のページをスクレイピングしました。しかし、実行したプログラムがGoogle側からロボットと認識されて、すべての情報を取得することができませんでした。その後、一定時間間隔ごとに情報を取得するようにプログラムを変更しましたが、これでもうまくいきませんでした。原因を自分なりに考えた結果、時間間隔をランダムに変更することで解決しました。

Q9.最近興味を持っている技術を記載してください。 またそう感じている理由も含めて記載してください。\*

最近興味がある技術はOCRです。僕が現在、個人で開発しているLINE Botで画像内にある文字情報を文字認識して、結果をトークに返信しています。このLINE Botの目標として、イスラム教など宗教上食べることができない食べ物があります。それが食料品の裏などに記載されている原材料名に含まれているかどうかを文字認識して結果を表示するBotを目指しています。これを実現するためには認識率が高い精度で求められているので、現在、AWSやGCP、AzureのOCRの精度を調べているから興味を持っています。興味深いと感じている理由は、認識率は各クラウドサービスで異なっている点です。AWSでは英語の認識率は高いのですが、日本語の認識は現在出来ません。これはAzureでも同様です。一方、GCPだと英語も日本語の認識率は一番高かったです。これは、GCPを提供しているGoogleが画像などのメディア情報を他の２つのサービスを提供している企業よりも圧倒的に保持しているからだと考えられます。学習にはデータ量が認識率に影響します。もちろんAWSのAmazonでも商品の画像データを持っていますが、データの多様性の面でいうとGoogleには及びません。このように企業で保持しているデータ量や種類によってOCRといった認識を行うサービスの性能が異なるのは実際に調べてみて興味深いと感じました。

Q10.技術系のカンファレンスや勉強会へはどの頻度で参加していますか。\*

* 1. 参加したことはない
* 2. 1〜数回参加したことがある
* 3. 数ヶ月に1度くらい
* 4. 月に1度以上

Q11.（技術系のカンファレンスや勉強会へ参加したことがある方）その中で特に印象に残っている発表を理由と共に記載してください。

印象に残っている発表は2019年にありましたLINE Developer Day で発表されたLINT (LINE Improvement for Next Ten years)です。

この発表では、サービスとして提供しているLINEについて技術的負債について社内ではどのように捉えて、今後10年使われ続けるために必要なことは何かについての内容でした。

自分が疑問にあった機能についての説明がありスッキリしたのと、リリース当初のお話なども紹介されていたのが印象的でした。また、社内でプロジェクトを立ち上げて、課題に取り組み姿勢などから、人々のプラットフォームとしての責任感などを感じたのが印象に残っている理由です。

Q12.技術系のカンファレンスや勉強会にて登壇した経験はありますか。\*

* 1. 登壇経験はない
* 2. 10分未満の登壇経験あり
* 3. 10分以上の登壇経験あり

Q13.（技術系のカンファレンスに登壇した方）発表のスライドをURLとして記載してください。

Q14.技術的なコンテストや競技等の参加・入賞経験などありましたら記載してください。